



発行所
全国曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝
2-5-2 曹洞宗吉祥寺内
発行責任者 伊藤道宣
TEL.03-454-5411FD



開曆祥瑞千里同風

謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

偉大なる神野哲州前会長の後を継承し、若さだけをとりえに七ヶ月を執行させて頂きました。時を重ねるにつれ、その重責に押し潰される思いで有ります。

振り返ってみます。この七ヶ月間、会則の見直し、各大会用講師一覧の作成、未加盟団体の嵌入及び会員名簿の作成、曹青通信の購読者募集、並びに復刻縮小版の作成と、発足時にご約束しました通り、『全曹青百年の為の布石たらん』と、役員一同地味ながら努力致して参りました。是、偏に会員諸兄の御理解の賜物と、深く感謝申し上げます。

本年は、千僧法要記念タイムカプセル埋設法要、バチカンにおける禅文化学林と、対外的大行事が予定されて居ります。更には、組織拡大増強の為に、新たな方式導入が検討されて居ります。

会員諸兄には、一層の御理解と支援を賜りますようお願い申し上げます。

末尾と成りましたが、各位の法身堅固、福寿無量を祈念致します。

平成二年元旦

会長 伊藤 道宣 百拝

青年僧侶のエネルギーを結集しよう
社会的価値ある活動をしよう
青年僧侶の自覚を促そう
地域における活動の連携を深めよう

東海曹青岐阜大会開催

10月17日～18日

一般入場者 1,300名
僧侶 150名
来賓 50名 の
大盛況



東北曹青秋田大会開催

10月4日～7日

眼蔵会・禅を聞く会
水墨画展 と
盛り沢山



年頭挨拶	1
第九回禅文化学林回顧・研修	2
東北曹青秋田大会	3
東海曹青岐阜大会	4
尼僧団だより	5
意識調査報告	6
	7
	8

破草鞋

方であった。▽六十二年には仏教伝道賞を受賞され、童話が認められたことと、そして何よりも文学賞であったことを喜んでいらした。生涯一千編創作の頼みはかなわなかったが、四十八年以來発行されている個人雑誌「まゆら」は奥様の手で再発刊され現在九十九号となっている。▽この小雑誌に「不屈記」という小説と先生のコメントをつけたページがある。説教材料によく利用させていたのだが、九十号あたりから先生ご自身の慈悲と護法の言葉が多くなっている。▽生前一度だけご自宅を訪問させていただいたことがある。この時、先生はご自分の生涯と弥陀の信仰と童話について愉快に話され、帰り際に「寂しさは唇噛みて耐えつつ生きてゆかまじ命のかぎり」と書かれた色紙を下された。この時はお話と色紙が違わずして戸惑ったが、今に思えば先生の童話は夢物語でなく僧侶として生きていく現実を踏まえて書かれていたのではないかと思える。

△先の「曹青通信・破草鞋」に「坊主」問題を書いてみた。これは「不屈記」に蔑視への憤りと現代僧に寄せる期待を綿々と記された先生の文章に刺激されて書いたものだ。▽人間より機械の方が信頼される現代は人間を説く僧侶に容易な時代とは思えない。「噛みしめてでも僧侶の道を進みなさい」という先生の言葉が聞こえる。釈尊も「忍の徳たること苦行持成も及ぶこと能わざる所なり」と遺経で示されている。今年の涅槃会では唇を噛みしめた先徳に一層の精進を誓ってみたい。

仏典童話作家の花岡大学先生が昨年亡くなられた。晩年は肺気腫で悩まれ、午前には創作、午後は自適という毎日であったが、来客は拒まず本願の喜びに生きた

謹 賀 新 年

本年も宜しくお願い申し上げます

第八期全国曹洞宗青年会

本部役員

会 長	伊 藤 道 宣	副 会 長	伊 東 充 伸	会 員	長 井 俊 英	会 員	谷 本 俊 昭	会 員	渡 津 法 晃	会 員	田 中 良 宗	会 員	名 村 直 高	会 員	計 中 山 義 紹	会 員	査 鎌 原 泰 彦	会 員	清 水 昭 信	会 員	神 野 哲 州
-----	---------	-------	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	-----------	-----	-----------	-----	---------	-----	---------

理 事

関 東	小 原 宣 弘	東 海	小 島 泰 道	近 畿	加 藤 貴 昭	中 国	岩 田 泰 成	四 国	福 村 俊 弘	九 州	村 上 和 光	北 九 州	西 村 秀 道	東 北	三 国 典 照	尼 僧 団	井 川 悦 道
-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-------	---------	-----	---------	-------	---------

委 員 会

総 合 企 画 委 員 会	委 員 長	村 松 延 行	副 委 員 長	稲 垣 智 正	委 員	長 谷 川 寛 孝	委 員	鈴 木 芳 巳	委 員	岡 野 聖 弘	委 員	中 村 哲 元
---------------	-------	---------	---------	---------	-----	-----------	-----	---------	-----	---------	-----	---------

事 業 研 修 委 員 会

委 員 長	村 田 和 彦	副 委 員 長	宮 崎 良 章	委 員	笠 神 雅 彦	委 員	鯨 岡 宏 智	委 員	時 田 泰 俊	委 員	吉 津 弘 道	委 員	矢 野 通 元	委 員	文 殊 靖 彦	委 員	遠 藤 和 光
-------	---------	---------	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------

組 織 委 員 会

委 員 長	平 清 水 公 宣	副 委 員 長	山 田 邦 博	委 員	栗 林 文 英	委 員	福 田 康 夫	委 員	酒 井 秀 瑞	委 員	原 田 秀 道	委 員	栗 田 光 潤	委 員	白 土 晃 道	委 員	無 着 至 純
-------	-----------	---------	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------

広 報 委 員 会

委 員 長	木 南 広 峰	副 委 員 長	押 見 正 宏	委 員	竹 俣 昭 孝	委 員	目 黒 修 道	委 員	村 山 雅 雄	委 員	木 村 芳 典	委 員	仙 井 恵 久	委 員	寺 田 冬 道	委 員	中 野 睦 宗
-------	---------	---------	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------

特 別 委 員 会

全 日 仏 青 係	委 員 長	吉 村 明 仁	委 員	矢 光 雪 巖	委 員	松 本 俊 幸	委 員	堀 部 明 宏	委 員	島 田 岱 禅	委 員	桂 川 道 雄	委 員	佐 藤 悦 成
-----------	-------	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------	-----	---------



平 成 二 年 元 旦

第九回禅文化学林・タイ・ネパールの旅を振り返る(下) その一

慎み深い仏教徒

農村訪問にあまり紙面を費やすわけにはいきませんが、全曹青のボランティア会支援の一環です。しばらくお付き合いいただきたいと思えます。

といっても、農村訪問は夜行で行って夜行で帰るという行程です。隔々まで見学できたわけではありません。仏教と生活について印象的なできごとを一つ報告して終わりにしたいと思います。

渡ってしまったボールペン

発展途上国を訪問するとき多くの日本人はチップがわりにボールペン、ライターなどを持っていくようです。今回も農村のしかも学校訪問ということでツアー参加者も随分持ち込んでいました。ところが、学校に到着するや、校長先生から「渡さないで欲しい」と言われ委

託することになりました。理由は女の人が一日の機織仕事で得る収入が二百円というこの村ではボールペンも高価で、簡単に渡してもらっては困るというのです。その通りなのです。支援の原点と同じなのです。

そう思いながらも、かわいい子どもの笑顔に禁を破ってしまいました。近くを夕焼けがまぶしい頃でした。近くを一人で散歩していると、小学校二年生くらいの男の子と三歳くらいのこれも男の子が道端にうずくまっていた。足音に気がつき顔を上げてきました。目が合いました。人なつこいほほえみを投げかけてきた時、私は魅かれるようにカバンからボールペンを出していたのです。

びっくりしたような兄の目。やがて、合掌して、両手を出してきました。弟は「何をもらったの」というように兄の手をのぞき込みます。あまりうらやましそうなのでその弟にも一本渡すことにしました。理由は女の人が一日の機織仕事で得る収入が二百円というこの村ではボールペンも高価で、簡単に渡してもらっては困るというのです。その通りなのです。支援の原点と同じなのです。

「ばちん。」
兄が上からその手を打ちつけ、早口で何か注意するのです。
私は思わずぼっとしてしまいました。「使えもしないのに手を出してはいけません」とでも言ったのかと思いましたがどうやら違うのです。

どうも「手を合わせなさい」ということとです。下を向いた弟もうなずくと両手を合わせてきました。スリランカも、インドネシアも次に訪問したネパールも子どもといえはみんな

ましそうなのでその弟にも一本渡すことにしました。
「えっ僕も」と信じられないような顔。更に勧めるとやっと手を出してくれました。その瞬間でした。

「ばちん。」
兄が上からその手を打ちつけ、早口で何か注意するのです。
私は思わずぼっとしてしまいました。「使えもしないのに手を出してはいけません」とでも言ったのかと思いましたがどうやら違うのです。

どうも「手を合わせなさい」ということとです。下を向いた弟もうなずくと両手を合わせてきました。スリランカも、インドネシアも次に訪問したネパールも子どもといえはみんな

合掌の生活

どうも「手を合わせなさい」ということとです。下を向いた弟もうなずくと両手を合わせてきました。スリランカも、インドネシアも次に訪問したネパールも子どもといえはみんな

と言っているほど手を出してきました。渡しても合掌した子どもはいません。今に思えば、確かにタイでも物売りの子どもは見かけましたが、手を出してきた子どもの記憶がないのです。

私もすっかり手を合わせました。感応道交とは大げさかも知れませんが、子どもとともに手を合わせ交流を喜びました。タイの仏教徒は慎み深いと言われている。喧嘩のパンコックでは中々信じられなかったのですが、この農村でそれを肌で感じる事ができました。

こんな農村にも物質優先の波は押し寄せて来ています。心を伴った支援を考えると、そんなところパンコックでは思わぬ事件が起きていました。

写真は、葬儀等において新亡に仏戒を説き、授戒しているが、これひとえに万仞のおかげであろう。当時は仏戒の本旨について知る人も少なく、万仞は教授戒文をもって禅戒となし、いわゆる禅戒一如の宗旨が確立されたのであった。このことを思えば万仞の功績は非常なものがあり、筆痕こそ、月舟、卍山に比べると数は少ないが、それだけ値打ちがあるというもの。

研修 第三回 吉岡博道

宗門の書「筆痕」

引続き卍山下の筆痕です。卍山の弟子に大機行休が出て、次に方仞道坦が出ました。次の系譜を見て下さい。



苦の結果である。目立たない仕事であるけれど、この万仞下の流れは今に綿密の宗風を無言のうちに呼びかけている。従って筆痕もとりたてて多い訳ではないが、夫々、筆痕は残っていて、宗門筆痕史の上では万仞の重みがある。

万仞と惟一の二つを拝見しよう。万仞(一六九八—一七七五)は大乗寺住職であった大機行休に嗣法。三河の長円寺(現西尾市貝吹町)、同じく万福寺(現額田郡額田町)を経て上野の宝積寺(現甘楽郡甘楽町)に住したことが知られている。若い頃から正法眼蔵の参究に力を入れ、高祖道の開揚につとめて、正法眼蔵の古鈔を拝写し、著述も正法眼蔵諫諍録、正法眼蔵法苑補闕録、正法眼蔵傍訓があり、更に禅戒を見直し、禅戒本義の書もあり、宇門禅戒の体系を大成した。私達



▲万仞道坦



▲惟一成允(正泉寺蔵)

写真のものは書画屋で見かけたもの。茶掛け風で本源自性天真仏と証道歌のこぼである。宝積寺万仞とサインしてあるから六十一才以後の書であろう。禅僧の筆痕は巧拙を問わない。その筆痕の中に「禅心」を見つけ、境涯を讃仰するのでなければならぬ。この書幅を拝見していると自分自身が浄められて、ノボセが下がり、何かしら、穏やかな気分になっていく。万仞の厳しい修行からにじみ出た、穏健の宗風の万仞の一分が私の肚裡にひびいてくる。書画屋も心得たものでこのような書幅は得難いと見て値段は高価であった。どなたの家蔵になつて居るだろうか。それにしても眼福を得た筆痕であった。

さてこの卍山下、万仞を筆頭とする正法眼蔵拝覧書写の系譜で慧輪、慧亮、本秀も夫々、筆痕があるが今回は惟一成允(一七八一—一八六一)を紹介する。惟一といっても読者にはなじみがないかも知れない。現在、永平寺でも毎年、眼蔵会が開かれている。これは明治三十八年悟由禅師の時に始まって、現在でもその時より数えての回次が使われているが、これより先、文久元年(一八六一)、臥雲禅師の時、尾張如意寺(現名古屋市緑区)十二世惟一が西堂として上山、正法眼蔵を提唱したことがあった。つまり永平寺で初めて眼蔵を提唱した宗師家ということになる。昭和五十七年、河村孝道駒大教授により江戸期主要眼蔵学者としての位置づけがなされ、この惟一が漸く評価された。最も以前に傘松誌で岸沢惟安、山内堯海師の文もあつたが、惟一の経歴は慧輪の下で眼蔵を参究、住地は如意寺のほか、安穩寺(現愛知県丹羽郡)孝願寺(現群馬県前橋市)がある。江戸青松寺にいき、眼蔵を提唱した記録もある。(詳細は宗学研究二十四号、昭和五十七年三月、拙論「惟一成允和尚覚書」あり)、この惟一が高祖大師を讃仰する所から梅花を愛で、自ら梅花洞、又は梅花庵と号し、南面を得意としてその小品は瀟洒にして絶塵、気品のあるものが多い。写真の地蔵画賛は私が永年、渴望して止まなかつた惟一の筆痕だが、不思議なもので当方が求めていけば、いつかは眼前にあらわれてくることを証明したもので、東京の書画屋目録で「惟一」という不明品を見つけ、まさかと思つたが、価格も安かつたので取り寄せてみたら正しく惟一のものであった。地蔵尊を信仰していた惟一の面目をあらわす好箇の画であり、賛である。冠帽印は「曹洞正脈」印は「惟一之印」「梅堂之人」である。読者諸氏もこの印を見つけたら是非大切に保存して欲しい。(文中、敬称略)

注文仏像・紫檀製仏具・大木魚・大鑿子

株式会社 宗 像 商 会

一本手打一枚製鑿子好評発売中—
本当の一枚の材料からたたき上げた鑿子です。
溶接品とは音質が違います。
まずはお問合せ下さい。

- | | | | |
|------|---------------------|---------|------------------------|
| 本店 | 東京都東村山市富士見町3丁目2番17号 | 〒198 | TEL (0423) 95-8505(代表) |
| 盛岡支店 | 岩手県盛岡市みたけ5丁目10番48号 | 〒020-01 | TEL (0196) 41-3955(代表) |
| 函館支店 | 北海道函館市亀田町19-18号 | 〒040 | TEL (0138) 43-8550 |
| 松山支店 | 愛媛県松山市和泉北1丁目5番20号 | 〒790 | TEL (0899) 47-2013 |

第14回東北曹洞宗青年会秋田大会

大衆教化の接点を求めて

— 禅の見聞 — 東北地区連絡協議会事務局長
山田道寿君からの報告



▲岩崎巴人師水墨画展

早速午後二時半より、提唱が始まり、緊張した雰囲気の中、酒井得元老師の声が堂内に響く、また堂頭老師を飯台導師に行鉢、改めて三泊四日の実践を通じて禅の見聞を広める目的を得るところとなった。参加者延べ七十五名。



▲眼蔵会

曹洞宗青年会第十四回東北地方集會「秋田大会」が平成元年十月四日〜七日に亘り「大衆教化の接点を求めて」をテーマに「禅の見聞」をサブテーマとして、現職研修会(眼蔵会)と「禅を聞く会」とを併催しての大会開催となった。十月四日午後一時、眼蔵会々場の秋田市補陀寺にて開会式並びに開講式が田口清謙宗務所々長老師の導師にて行なわれ、講師には酒井得元老師「即心是仏について」提唱、補陀寺堂頭鈴木鉄心老師「戒法について」の講義。



十月四日午前十時より秋田県社会福祉会館にては岩崎巴人師の作品五十点余りを集め、水墨画展が十月八日まで公開され、一般並びに会員合わせて八百名余りが入場、十月七日午前十時には岩崎巴人師を囲み親しく歓談しながら、その作品一点一点への思いと説明を語っていた。巴人師の「禅」に対する研鑽ぶりが窺われる鑑賞会となった。朱色の瓢箪の絵に眼横鼻直と書かれた作品、あるいは、洞山渡水図と題し、功忘従他覺、迢迢與我疎、我今獨自在、處處得逢渠、と書かれており、洞山が浅い川を渡る姿を描いた作品等、現在作品の多くは千葉県館山市の美術館に収蔵されている。

▲岩崎巴人師の作品解説

午後一時半より秋田県民会館にて一般公開講座として「仏教文化講演会・禅を聞く会」が開演、石井透山氏(尺八・都山流大師範、一九七一年より世界各地で公演、現在千葉県館山市在住)鈴木鈴秋氏(鈴木道雄師であり、秋曹青副会長・天王町・自性院住職・琴古流尺八大師範)の両人による「鹿の遠音」、次に石井透山氏、箏、高垣幸子氏(宮城道雄・宮城喜代子の両氏に師事、世界各地で公演され、現在北海道札幌在住)による「端星」最後に石井透山氏により「竹籟五章」が演奏され、日本の風土、日本人の持つ心の動きを的確に捕え、禅の持つ静と動の息づかいが聴衆に伝わり大いに感銘を与えた。演奏後、秋曹青・柳川浩二会長より挨拶と奏者が紹介された。午後二時、岩崎巴人師による講演「日本文化と禅の芸術」巴人師は七十二才、千葉県館山市、NHK教育テレビにも出演、禅画の奥の深き芸術性が評価されず孤軍奮闘、一九七七年には京都禅林寺にて出家得度、今後、禅をテーマに意欲的に描いていきたいと抱負を述べられた。



▲式典



▲仏教文化講演・禅を聞く会

秋田大会決議文

世の中が豊かになると、助け合いの心が薄れ、利己主義がはびこるとは社会学者の通説である。我々は、今こそ「利他行」の尊さを伝えてこられた釈尊、祖師、先達の「御教え」を再認識し、人々の渴望に答えなければならぬ。ここに第十四回曹洞宗青年会東北地方集會秋田大会を開催した。秋田大会テーマ「禅の見聞」のもと、眼蔵会を修行し、不離叢林の精神を以って、和合僧の尊さを学び、東北大会テーマ「大衆教化の接点を求めて」のもと、一般公開講座、禅画展を開催し、禅の精神を広く一般大衆に訴えるものである。稔りの秋の真只中、緑濃き我が東北の地を「真の心のふるさと」とすべく、精進和合していくことを確認し、決議文とする。

平成元年十月七日
第十四回曹洞宗青年会
東北地方集會「秋田大会」参加者一同



輪島塗箸

よしの杉箸

友禅人形付・各 ¥230

(東面)

浄水の器

HOYAクリスタルクラス
受け台・椀・クロス張り
のし・しおり・化粧箱入り

オリジナル貝本
(贈り物 ¥1000)

¥510 ¥410 ¥480 ¥380

サワイ企画 〒254 神奈川県平塚市田村 6421
電話 0463-54-2604番

HOYAクリスタルクラス
受け台・椀・クロス張り
のし・しおり・化粧箱入り

オリジナル貝本
(贈り物 ¥1000)

第13回東海曹洞宗青年会岐阜大会

「日本のこころ、日本のうた」

心の床の間に一幅の掛け軸を!!

東海大会事務局長 坂 龍敬君からの報告

第十三回東海曹洞宗青年会岐阜大会は去る十月十七日、岐阜県恵那市の恵那文化センターにおいて開催された。

ここを見失った現代に今一度この有り様を思い直そうと、今回はメインテーマを「日本のこころ、日本のうた」と銘打ち、元NHKアナウンサーの鈴木健二氏の講演とアンサンブル・ドリリアンの演奏・歌唱によるコンサートを企画した。思えば、一面識もない超多忙の鈴木健二氏を招聘すべく、実行委員長自らが東京まで再三再四足を運んでのNHK語での末遂に講演をお引受頂いたことは、真に幸いであった。又、若手音楽家グループであるアンサンブル・ドリリアンが演奏を快諾したのは、元号も改まった平成元年一月八日であった。

さて、大会当日、昨夜来の叩きつけるような雨が嘘のように空は晴れわたり、開場時間の二時間も前から、大ホール受付前には行列が出来始め、主催者側としては大会の成功を予感させる嬉しい状況となった。



▲大入りの聴衆

開場予定を大幅に繰り上げ、十一時十五分に受付を開始するや、ぞくぞくと入場者がつめかけ、会場の恵那文化センター大ホールは収容人員の一千名を軽くオーバーし、立見を含めて千百名、更に、子備として大型プロジェクターにより会場の模様をモニターするように設置された四ヶ所のサブ会場も、二百人以上が入場した。十二時四十五分の開演前には、一般入場者千三百名・東海四県下青年宗侶百五十名来賓五十名の計一千五百名が

入場するという、恵那文化センター開館以来未曾有の大盛況となった。



▲挨拶する小島泰道実行委員長

十二時四十五分、小島泰道実行委員長の「私共はこの大会を通じ、皆様方の心の床の間に今日新しく一幅の掛け軸が掛からんことを願っております」という開会宣言に続き、恵那市長森川正昭氏、岐阜県事務所長西尾仙英老師よりの祝辞を賜った後、簡単な椅子坐禅の説明指導が司会より行われて、いよいよ大会の幕が開けた。舞台正面の緞帳がゆっくりと上がっていきにつれて、舞台上には総勢六十五名の東海四県下青年宗侶が柔らかな光のさす白い薄もやの中より、あるいは山上にあるいは樹下に、またあるいは巨大な朽ち木の陰にと、様々な意匠を凝らした構造物の上に黒衣木欄を身にまとい、一糸乱れぬ坐禅の姿で出現する。



▲舞台にて坐禅する青年会員

まるで生ける五百羅漢を見るがごとくであったと入場者の一人は後に語っていた。その荘厳な姿に会場は水を打ったように静まりかえった。やがて静かに流れるパツフェルベルの「カノン」の曲と共に約十分間舞台と会場は一体となって静寂の時間を共有した。放禅鐘と共に坐禅の時間が終了すると、深い感動の気配が

会場を包み込み、それは、講演・コンサートと続くプログラムの最後まで参加者を支配した。鈴木健二氏の講演は、その稀有な博識と人の心を引き付けて離さぬ巧みな語り口をもって、一時間半の講演中、何度も聞き者をして笑わせ、涙ぐませ、そして考え込ませる、まことに開然とするところの無い見事な内容であった。一本のライ麦が生命を維持するのに要する根の長さの総延長は六八〇キロにも達するという事実を示し、「何よりも今の日本にはこうしたいのちの尊さを教える人がいない。生き物の命の素晴らしさ、掛けがえの無さを知ることこそ、豊かなところを育む事につながるのだ」という指摘には深く考えさせられた。

その後、会場を下呂の水明館に移して午後七時より、東海曹青会員一五〇名が参加しての懇親会を行った。大会長中島季雄師の挨拶に続き、来賓の宗会議員森和久老師、全曹青会長伊藤道宣師など、多数の方々より祝辞を賜った後、一同各々に旧交を暖め合いつつ夜の更けるまで楽しく語り合った。



▲鈴木健二師の講演

翌日は、これ又一点の曇もない晴天のもと、東海四県下七曹青会による恒例の親善ソフトボール大会を、下呂町に隣接する加子母村グラウンドにおいて開催した。和やかな雰囲気なかひとしきりボールを追って汗を流し、次回開催地静岡での再会を誓い合って午後二時、二日間におたる第十三回東海大会の全ての日程を終了した。



▲アンサンブル・ドリリアンの演奏

続く「日本のうた」のコンサートは、一転して誰もが幼い頃口ずさんだはずの『早春賦・花・砂山・椰子の実・紅葉・赤とんぼ・たき火・雪の降る街を』などが、パロッド楽器特有の柔らかな音色の演奏をバックに唱い上げられ、忘れていた童心を呼び覚まされるような懐かしい思いが参加者の内に溢れた。アンコールに、ホール全員が一体となって「かあさんの歌」を大合唱し、大会の幕を閉じた。終演後、ロビーにて曹青会員全員が入場者を送りつつお礼を述べると、「こちらこそ有難う」という言葉を多数の方より次々に頂くことが出来たことは、主催者の何よりの喜びであった。

去る十一月一日東海曹洞宗青年会は、定例の連絡協議会を名古屋市内において開催し、第十三回東海曹洞宗青年会岐阜大会の決算報告を承認した。併せて、会則に基づき、次期東海曹洞宗青年会会長に曹洞宗青会長小島泰道師を選出した。次期執行部は次の通りである。

- 会 長 岐阜県長国寺住職 小島泰道
- 事務局長 岐阜県大林寺副住職 坂 龍敬
- 会 計 岐阜県善昌寺副住職 井口顕宏

89年9月～90年3月 アショカツアーズ特選旅行のご案内

<p>1 お釈迦様のみ教えと足跡を慕う インド仏跡巡拝の旅 328,000円より 東京・大阪発着・全食付・添乗員同行 ※ご希望の出発日・日数・コースをお知らせ下さい。豊富な催行決定ツアーの中から一番ご希望に適したコースをご紹介致します。</p>	<p>2 微笑みのスリランカ 仏教遺跡巡拝の旅 195,000円より 東京・福岡(10/30より)発着 毎週 月・木曜発8日間 2名より出発保障 添乗員は同行しません。現地係員がお世話致します。</p>	<p>3 情熱と郷愁のスペイン ポルトガル・パリ探訪 465,000円 東京・大阪発着 10月7日発 12日間</p> <p>※その他多数の旅行がございます。お問合せ下さい。早速資料をお送り致します。</p> <p>運輸大臣登録一般旅行業第347号 株 ビーエス観光 一般旅行業務取扱主任者 松浦修三 〒530 大阪市北区中之島3-6-32 (大ビル1F) TEL 06-444-2221(代) 444-2225(直) 5月1日発行第60号を参照下さい。担当 松浦山下</p>
---	--	--

尼僧団便り

尼僧堂紹介 (一)

愛知専門尼僧堂

愛知専門尼僧堂は、釈尊の御真骨が奉安されており、佛舎利塔のお膝元、名古屋千種区城山町の閑静な住宅街の小山の上にある。

創立は明治三十六年五月八日。全国尼僧の取締役という重責を背負い、宗門尼僧の創立、尼僧教育に於ける奮闘をもつ水野常倫師は、堀密成・安藤道契・山口巨鑑の三師と共に、安藤道契師の住する東春日井郡高蔵寺村の薬師堂において「私立尼僧学林」として呱呱の声をあげたのである。最初にこの門をたたいた



▲愛知専門尼僧堂・僧堂

僧は二十二名、竹藪と雑木林に囲まれた薬師堂の六畳二間の本堂が道場のすべてであり、坐禅堂、食堂・教室にと変幻自在に活用され、開關四恩師を中心とする厳しい修行が続けられた。やがて宗門の認めるところとなり、明治三十八年十二月、宗立の認可を得「関西尼学林」と称した。

明治四十二年十一月には名古屋市柳原の地に移転、開林式を行った。大正元年には、大暴風雨の為に教室一棟が倒壊し、犠牲者も出したが、その後教職員、生徒そして外護者にも恵まれ一丸となって復旧した。講堂・校舎・寄宿者とおおかたの設備は整ったが、叢林として最も大切な坐禅堂のないことに心を痛めていたところ、老女の一寄進によって建立するこ

とが出来、その開単式並びに開単接心が昭和十五年一月十日より二十一日まで加藤道老を講じて修行された。参列者は二百名を越え盛況であったという。こうして学林も創立三十七年にして、本堂・僧堂・校舎・寄宿舎・持仏堂・典座寮・延寿堂と堂々たる威容を整え、修行する僧も百四十名を越え、まさに我が世の春を謳歌する感があった。

全員が学徒動員として工場で働くこととなった。そしてついに昭和二十年五月十四日の大空襲で学林も焼失してしまったのである。終戦後、福蔵寺・乾徳寺で仮寓し、その間学林再建に向けて当時学監をしておられた堀徳徳師が兼務していた城山の正法寺を全面的に提供する旨を申し出られ、又教職員、生徒一丸となってモッコをかついで土を運び、つるはしをふるって木の根を掘り、或は鉢鉢し、昭和二十二年十二月三日、城山の地に落ちつくことが出来たのである。昭和二十年より「第一尼学林」となった名称も曹洞宗高等尼学林と改称された。

昭和二十五年三月僧堂建設の切なる願いのもとに一年半にわたる鉢鉢が始められ全国各県を回り、翌年秋までに完成し九月十二日開単式並びに接心が感涙のうちに修行された。前後して曹洞宗宗制の改正により愛知専門尼僧堂設立の認可がおりたのである。

昭和四十五年には一世紀以上にわたって続けられてきた宗制上における男僧、尼僧の差別撤廃への運動が実を結び、尼師家養成の道場としての特別尼僧堂が設置され、初代師家として前總持寺後堂の松田亮孝老師、堂長には田中道倫師が就任され、第一期生として尼僧堂の若手職員四名が掛塔し同年五月開単接心が修行された。

日に完成、全国より寄せられた写経による協力も二万枚を越え、写経塔も建立され、その他一切の工事が昭和五十八年三月末日をもって完成した。五月に落慶法要並びに創立八十周年記念式典、秋には奏慈慧禪師をお迎えして、落慶記念大授戒会が三日間にわたり修行された。

現在の尼僧堂は、全国的に尼僧の数が減少していることもあり、安居生は十数名であるが、青山俊重堂長のもと、八十余年にわたって先人が築きあげた法灯を守るため一心に修行に励んでいる。毎月初めには三日、六日間の接心を行い、日々の行事、宗乗・余乗の講義・茶・華道、御詠歌、書道、三衣(お袈裟を縫う)と、又一般の方々にも門戸を開き、月一回、日曜参禅会が行なわれ、毎回四十名以上の方が大衆と一語になり坐禅、お勤めをし、堂長老師の講話を聞き、共に中食をいただき、叢林の一日を過ごしている。毎月第三土曜日には写経教室も開かれて

いる。毎年七月に開催されている「女性緑陰禪の集い」も今年は二十四回を数えた。四月から十一月にかけて、県内送行の協力を得、七ヶ月授戒を、七月には地藏流しと、一般の方々への布教化もなされている。

中国に初めて佛教が伝来した時期については、古来いろいろの異説がとらえられ、その中でも後漢の明帝永平十年(六七)に迦葉摩騰と竺法蘭とが王使に従って洛陽に來り、四十二章経を訳出したのが即ち公然としての佛教の伝来であるといわれている。それでは最初の尼僧はというと西晋年中(三一三—三一六)淨檢尼が、西域俱智山に従って剃髮して十戒を受け更に東晋年中(三五五—三四二)僧建が月支国より摩訶僧祇比丘尼戒本並に羯磨を齎し、升平元年(三五七)二月曇摩羯多を講じて洛陽に比丘尼戒壇を建てると及び淨檢尼は同志三人と共に壇に上って僧祇律の受戒作法によって具足戒を受けたことによる。次いで淨檢尼は同志の尼僧二十四人と共に、洛陽城西に竹林寺を創建し、ここに住し、自らその師となり衆徒の為に説法した。これが恐らく中国における尼寺の最初であり、茲に尼僧団も成立した訳である。

それでは次に中国禪宗の尼僧について考えてみましょう。

中国に初めて独立の系統を作った禪宗は、達磨大師の西來に始まる。達磨大師は西來当時の教界は印度の諸經典は殆ど伝訳され、その講究實修も次第に活発となり、特に大乘禪觀への関心が自ら一つの流れをなしていたから、この禪者を迎えるべく相当な水準に達していたのである。禪宗尼僧については、史伝に顕われているもの極めて少なく且つその事実を詳細に伝えるものも少ない、従って達磨大師の西來以後約千三百年間中国文化の機軸を握り、時代を動かし来た多数の禪宗男僧の歴史の展開と比較すれば誠に寂寥である。併し数においては劣っていない。その質においては男僧も及ばない程の勝れた得法の尼僧が少なくなかったことは、道心において性の差別のないことを、禪宗史上に実証している。

名を尼僧である。達磨伝によると、達磨が自ら中国の化縁了るを知ってまさに印度に還らんとし、四人の弟子に命じて各々所解を呈露せしめた。時に尼は「我が今の所解の如きは、慶喜、阿闍佛国を見るに一見して更に再見せず」と云った。大師はこれに対して「汝が肉を得たり」と印可を与えた。またこの時、他の三人の弟子も別々に印可せられたのである。従って總持尼は、他の三人の男僧同様達磨大師の全生命を相続した弟子であったのである。史実の如何は別として、古來喧伝されている禪宗の初祖達磨大師の有名な皮肉骨髄の話に「尼僧の名をとどめて注目すべき事柄である。なお總持尼は禪宗における最初の尼僧である。

南嶽・青原両師の時代から唐宋五代の末に至るまで凡そ二百五十年間は、いわゆる中国禪の発達時代と称せられている。南嶽・馬祖道一「百丈懷海」鴻山靈祐と伝わり、鴻山の弟子に劉鐵磨尼がある。尼はあるいは鴻山の弟子怪山洪諱の法を嗣いだとも伝えられている。常に鴻山の靈祐禪師に参じて大悟徹底した圓悟禪師は、碧巖録の中の評唱において「劉鐵磨は尼なり。擊石火の如く閃電火に似たり。擬議すれば則ち喪身失命す」と云い、また「劉鐵磨は久參して機鋒峭峻なり、人號して劉鐵磨と為す」と述べられている。尼については各種の語要諸録にその因縁が記されて居り種々の話も出てくるが、中でも碧巖録第二十四則及び從容録第六十則に「鐵磨到鴻山」「鐵磨特牛」等の題名による公案が最も有名である。

「拳す。劉鐵磨鴻山に到る。山云く、老孛牛汝來や。磨云く、來日臺山に大會あり、和尚還つて去るや。鴻山身を放つて臥す。磨便ち出で去る。」この劉鐵磨尼と鴻山禪師との問話によって同得同證の知音底の上に、男女の相を認めぬ様子が窺われ、更に尼が如何に機峰峻峭、大丈夫も及ばぬ英気を有し、且つ眞箇佛祖会中の英雄とも称すべき全種見識の優れた尼僧であったことが判ると共に、この公案の言語道斷、到底文字言句の及ばないところを、人々各々に実参実究して冷眼自知すべきである。

須田道輝老師

学道用心集講話 (二)

○この世はすべて思う様にはならないが思う様に生きる。
○計らい心を持つたら、迷いがおきて来る。
○無駄なものはないと思えば、すべてが生きて来る。
○佛道修行は、人の為にするべきに非ず。
○当り前のことを当たり前と気がつく事は大変なこと。
○長くなると激みが出来て来る。日々新

しい生活を心掛ける。
○只念佛することも、只坐禅することも同じ。
○矛盾を背負って生きるといふ事はむづかしい。これが仏道である。
○佛教を学問・飾りものにしてはいけない。
○坐禅は佛の姿―佛は煩惱もすべてひっくるめている。
○言葉の行き違いが心の行き違い、考え

方の行き違いになる。これによって戦争や対立がおきて来る。
○佛教は無常と流転。
○病気の時は病気になるがよろしかろう。
○合掌―手を合わせていればケンカも出来ぬ。合掌は自分を守る。
○佛法の為に佛法を修す。
○困った時は一歩退いてみる事が大切。
○心を働かせる事を工夫する。
○人間のドロドロしたものをかかえて坐禅するから素晴らしい。
○外が豊かになると心が空虚になる。

○心の中の有り難さが分かる人は、物の有り難さが分っている。
○縁とは日常刻々起こっている。その起こった縁を又起こしてゆく。
○六十才まで来た人間を造る精神的なもの満しなさい。
○運を開くことは一つの道を歩くこと。
(信濃結集講話より抜粋)

尼僧史 (三)

中国禪宗の尼僧 その(一)

中国に初めて佛教が伝来した時期については、古来いろいろの異説がとらえられ、その中でも後漢の明帝永平十年(六七)に迦葉摩騰と竺法蘭とが王使に従って洛陽に來り、四十二章経を訳出したのが即ち公然としての佛教の伝来であるといわれている。それでは最初の尼僧はというと西晋年中(三一三—三一六)淨檢尼が、西域俱智山に従って剃髮して十戒を受け更に東晋年中(三五五—三四二)僧建が月支国より摩訶僧祇比丘尼戒本並に羯磨を齎し、升平元年(三五七)二月曇摩羯多を講じて洛陽に比丘尼戒壇を建てると及び淨檢尼は同志三人と共に壇に上って僧祇律の受戒作法によって具足戒を受けたことによる。次いで淨檢尼は同志の尼僧二十四人と共に、洛陽城西に竹林寺を創建し、ここに住し、自らその師となり衆徒の為に説法した。これが恐らく中国における尼寺の最初であり、茲に尼僧団も成立した訳である。

それでは次に中国禪宗の尼僧について考えてみましょう。

中国に初めて独立の系統を作った禪宗は、達磨大師の西來に始まる。達磨大師は西來当時の教界は印度の諸經典は殆ど伝訳され、その講究實修も次第に活発となり、特に大乘禪觀への関心が自ら一つの流れをなしていたから、この禪者を迎えるべく相当な水準に達していたのである。禪宗尼僧については、史伝に顕われているもの極めて少なく且つその事実を詳細に伝えるものも少ない、従って達磨大師の西來以後約千三百年間中国文化の機軸を握り、時代を動かし来た多数の禪宗男僧の歴史の展開と比較すれば誠に寂寥である。併し数においては劣っていない。その質においては男僧も及ばない程の勝れた得法の尼僧が少なくなかったことは、道心において性の差別のないことを、禪宗史上に実証している。

昭和62年度全国曹洞宗青年会意識調査—報告

4. 満年齢別 * 21. 浄髪をしていない理由

	標本数	兼職の会社等があるため	遊びに行くことが多い	遊びから遊びに行くことが多い	めんどろくさ	僧侶の形は浄髪で決まらな	いとと思うから	浄髪をしないとい	う人がいる	その他	無回答
全 体	100.0 634	38.2 242	2.7 17	1.7 11	14.7 93	15.0 95	0.3 2	14.5 92	12.9 82		
20~24歳	100.0 10	10.0 1	10.0 1	-	-	30.0 3	-	50.0 5	-		
25~29歳	100.0 103	31.1 32	7.8 8	1.9 2	14.6 15	15.5 16	1.9 2	19.4 20	7.8 8		
30~34歳	100.0 130	31.5 41	3.8 5	3.8 5	16.9 22	16.9 22	-	16.2 21	10.8 14		
35~39歳	100.0 186	38.7 72	0.5 1	2.2 4	17.7 33	13.4 25	-	13.4 25	14.0 26		
40歳以上	100.0 199	45.7 91	1.0 2	-	11.6 23	14.6 29	-	10.6 21	16.6 33		

4. 満年齢別 * 14. 職 業

	標本数	寺務のみに従事している	寺務・家事に従事している	他の職業を兼業している	他の職業を専業している	僧堂・叢林に安居している	学 生	無 職	無回答
全 体	100.0 1193	54.4 649	3.9 46	27.8 332	8.2 98	3.9 47	0.6 7	0.2 2	1.0 12
20~24歳	100.0 40	5.0 2	2.5 1	5.0 2	2.5 1	70.0 28	12.5 5	-	2.5 1
25~29歳	100.0 160	49.4 79	8.1 13	24.4 39	8.8 14	6.3 10	0.6 1	0.6 1	1.9 3
30~34歳	100.0 236	61.9 146	3.0 7	24.6 58	8.1 19	1.3 3	0.4 1	0.4 1	0.4 1
35~39歳	100.0 336	54.5 183	4.2 14	28.6 96	10.7 36	0.6 2	-	-	1.5 5
40歳以上	100.0 408	58.3 238	2.5 10	32.6 133	5.9 24	0.5 2	-	-	0.2 1

4. 満年齢別 * 18. 今の立場になってからの期間

	標本数	5年まで	6年 10年	11年 15年	16年 20年	21年 25年	26年 30年	それ以上	無回答
全 体	100.0 1193	30.3 362	28.4 339	17.5 209	11.0 131	3.7 44	2.8 33	1.8 21	4.5 54
20~24歳	100.0 40	15.0 6	40.0 16	40.0 16	-	-	-	-	5.0 2
25~29歳	100.0 160	53.8 86	12.5 20	15.0 24	11.9 19	1.3 2	-	-	5.6 9
30~34歳	100.0 236	41.9 99	38.1 90	8.5 20	5.9 14	0.8 2	0.4 1	0.4 1	3.8 9
35~39歳	100.0 336	31.5 106	34.5 116	20.8 70	5.7 19	2.1 7	1.2 4	-	4.2 14
40歳以上	100.0 408	15.2 62	23.0 94	19.1 78	19.1 78	7.8 32	6.9 28	4.9 20	3.9 16

4. 満年齢別 * 52. 余暇の過ごし方

	標本数	宗教的な勉強	曹青活動	ボランティア	活動 梅花などの研 法話	趣味や社交等	何もしない	その他	無回答
全 体	100.0 1193	17.4 208	4.9 59	3.8 45	8.9 106	40.7 486	12.7 151	8.9 106	2.7 32
20~24歳	100.0 40	22.5 9	-	-	2.5 1	40.0 16	22.5 9	10.0 4	2.5 1
25~29歳	100.0 160	13.1 21	5.0 8	2.5 4	3.8 6	56.9 91	8.1 13	6.3 10	4.4 7
30~34歳	100.0 236	10.2 24	8.1 19	0.4 1	10.2 24	48.3 114	13.6 32	6.8 16	2.5 6
35~39歳	100.0 336	18.2 61	5.1 17	3.9 13	9.2 31	41.1 138	11.0 37	9.5 32	2.1 7
40歳以上	100.0 408	22.5 92	3.7 15	6.1 25	10.8 44	30.1 123	14.0 57	10.3 42	2.5 10

法要の際にご本堂などで—

修證義

5冊納入 ¥6,000
10冊納入 ¥11,000

曹洞宗日課経大全

100冊未満 1冊につき ¥500
100冊以上の場合 ¥480

修證義ミニ本

100冊以上 1冊につき ¥50
*500冊以上、真鍮紙に寺院名を刷込が出来ます。

妙法蓮華經

•安楽品 •寿量品 •持明品

別編金剛仕上げ表紙(3冊セット) ¥7,000
洋紙(きぬもみ)仕上げ表紙(3冊セット) ¥6,000

*お申し込みは— (株) **タイキ** 〒538 大阪市鶴見区今津中3丁目9番6号
TEL (06)969-7191 代 FAX (06)969-7194

(※各冊品もありませう。)
(※修證義との組合せも出来ます。)

4. 満年齢別 * ⑤ 孟蘭盆会

	標本数	49人以下	50-99名	100-149名	150-199名	200-299名	300-399名	400-499名	500名以上	無回答
全 体	100.0 642	10.9 70	20.1 129	17.6 113	8.4 54	14.3 92	8.6 55	2.6 17	10.6 68	6.9 44
20~24歳	100.0 17	5.9 1	5.9 1	5.9 1	5.9 1	5.9 1	17.6 3	11.8 2	-	41.2 7
25~29歳	100.0 91	9.9 9	28.6 26	12.1 11	8.8 8	14.3 13	8.8 8	1.1 1	7.7 7	8.8 8
30~34歳	100.0 131	5.3 7	16.8 22	18.3 24	13.7 18	18.3 24	6.9 9	3.8 5	11.5 15	5.3 7
35~39歳	100.0 177	12.4 22	19.8 35	22.0 39	6.2 11	11.9 21	8.5 15	2.3 4	10.2 18	6.8 12
40歳以上	100.0 219	14.2 31	19.6 43	16.9 37	6.8 15	14.6 32	8.7 19	2.3 5	12.8 28	4.1 9

4. 満年齢別 * 13. 僧堂歴

	標本数	禅堂を含む 禅林-併置 禅林-専門 僧	専門- 尼-僧	本山 僧堂	特別- 尼-僧	叢林 認可以外 の	他宗派 の叢林	特殊 安居	安 居 し た こ と	の な い 人	無 回 答
全 体	100.0 1193	4.7 56	24.1 288	60.5 722	0.9 11	1.2 14	0.2 2	3.9 46	3.4 40	1.2 14	
20~24歳	100.0 40	-	7.5 3	75.0 30	-	-	-	2.5 1	10.0 4	5.0 2	
25~29歳	100.0 160	5.0 8	15.0 24	71.3 114	0.6 1	-	-	3.1 5	3.8 6	1.3 2	
30~34歳	100.0 236	4.7 11	20.8 49	66.9 158	0.8 2	1.3 3	0.4 1	2.1 5	2.5 6	0.4 1	
35~39歳	100.0 336	4.8 16	25.6 86	60.4 203	0.6 2	1.2 4	-	3.9 13	2.4 8	1.2 4	
40歳以上	100.0 408	4.7 19	30.1 123	52.0 212	1.5 6	1.7 7	0.2 1	5.4 22	3.4 14	1.0 4	

4. 満年齢別 * 16. 就職・就業の理由

	標本数	寺 院 か ら の 収 入	入 院 で は な い 収 入	活 動 で は な い 収 入	も と と 豊 か な た	暮 ら し が し た	い ら な い 収 入	余 暇 が あ る か ら	あ る か ら	寺 務 が 難 い	だ か ら	身 づ か り の 技 術	か し た い か ら	そ の 職 業 を 通 じ て の 助 け	け に な る の 助 け	得 来 の 寺 院 を 離 れ た か ら	か ら と 思 う	そ の 他	無 回 答
全 体	100.0 430	56.3 242	0.7 3	2.6 11	0.2 1	6.3 27	16.7 72	-	4.0 17	13.3 57									
20~24歳	100.0 3	-	-	-	-	-	66.7 2	-	-	33.3 1									
25~29歳	100.0 53	54.7 29	1.9 1	1.9 1	-	3.8 2	22.6 12	-	3.8 2	11.3 6									
30~34歳	100.0 77	49.4 38	1.3 1	6.5 5	-	6.5 5	11.7 9	-	6.5 5	18.2 14									
35~39歳	100.0 132	59.1 78	-	3.0 4	0.8 1	4.5 6	15.9 21	-	3.8 5	12.9 17									
40歳以上	100.0 157	59.9 94	0.6 1	0.6 1	-	7.0 11	17.2 27	-	3.2 5	11.5 18									

4. 満年齢別 * 29. 全国曹洞宗青年会に対する意見

	標本数	新 し い 教 化 の 実 施	組 織 改 革 機 構 の	若 年 教 化 者 の 交 流	成 熟 資 料 の 作 成	人 権 問 題 へ の 取 組	各 種 情 報 の 収 集	各 種 研 修 会 の 実 施	そ の 他	無 回 答
全 体	100.0 1193	23.0 274	5.0 60	20.8 248	19.4 232	1.3 15	11.6 138	7.0 84	6.0 72	5.9 70
20~24歳	100.0 40	27.5 11	7.5 3	22.5 9	5.0 2	-	17.5 7	2.5 1	5.0 2	12.5 5
25~29歳	100.0 160	18.8 30	6.9 11	19.4 31	18.8 30	2.5 4	20.0 32	6.9 11	1.9 3	5.0 8
30~34歳	100.0 236	22.9 54	5.5 13	16.5 39	23.7 56	1.7 4	11.9 28	7.6 18	4.2 10	5.9 14
35~39歳	100.0 336	19.9 67	4.5 15	18.2 61	24.4 82	0.3 1	12.8 43	7.1 24	7.4 25	5.4 18
40歳以上	100.0 408	27.2 111	4.2 17	24.5 100	15.0 61	1.5 6	6.6 27	7.4 30	7.8 32	5.9 24

4. 満年齢別 * 53. 坐禅会の年間回数

	標本数	0 回	1 回 5 回	6 回 1 回	1 回 1 回	2 回 1 回	3 回 1 回	4 回 1 回	5 回 1 回	無 回 答
全 体	100.0 1193	38.0 453	33.9 404	5.9 70	8.4 100	3.9 46	1.4 17	2.0 24	4.4 52	2.3 27
20~24歳	100.0 40	52.5 21	22.5 9	5.0 2	5.0 2	-	-	5.0 2	2.5 1	7.5 3
25~29歳	100.0 160	44.4 71	27.5 44	3.8 6	12.5 20	3.8 6	-	2.5 4	2.5 4	3.1 5
30~34歳	100.0 236	43.2 102	30.1 71	5.1 12	6.4 15	4.2 10	1.7 4	2.5 6	5.1 12	1.7 4
35~39歳	100.0 336	39.3 132	34.8 117	6.3 21	8.9 30	3.6 12	0.9 3	1.2 4	3.0 10	2.1 7
40歳以上	100.0 408	30.4 124	37.7 154	7.1 29	7.8 32	4.4 18	2.5 10	2.0 8	6.1 25	2.0 8